



輝けメカニクス

整備工場の人づくり

<202>

東京都立六郷工科高校(佐々木哲校長)は、全国の工業

高校では珍しく、自動車整備に関するオートモビル科で外国人留学生を受け入れている。国籍も中国、ネパール、パキスタンと幅広い。生徒らは3年間で日本語能力や自動車整備に関する知識・技能向上だけでなく、人間的にも大きく成長したと口をそろえる。卒業後の進路は、大学や専門学校などとさまざまだが、自動車関連に進む生徒が大半を占めるといふ。

(谷口 利満)

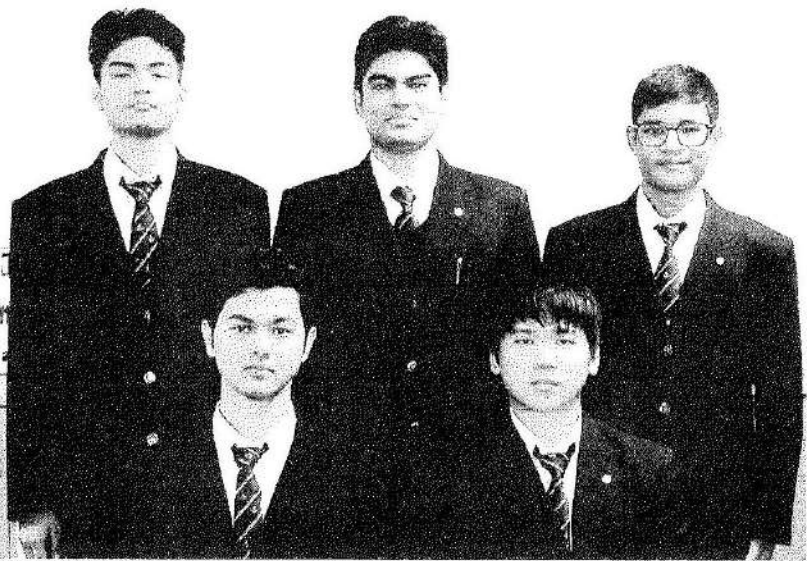
■自動車への憧れから来日 「幼い頃からクルマが好きで、日本で勉強したいの思いが強かった」と話すのは、ネパールのブン・ケファスさん。アニメや映画を通じて好印象も来日を後押しする動

機になった。外国人留学生に共通する悩みは、日本語の難しさだ。入学前から日本語の基本を学んでいた生徒は多いものの、読み書きや座学での授業では苦労が多かったようだ。そのため、同校では放課後に日本語の特別授業を実施している。

ネパール人のサキヤ・アシスさんは「先生の指導のおかげで日常会話は問題ないレベルまで上達した」という。実際に車を分解し、修理や部品交換を手掛けたことで「車の基本原理を知った驚きは大きく、高校生活で最も印象に残った出来事だった」と、パキスタン人のシドウ・ムハン

多数の外国人留学生受け入れ

東京都立六郷工科高校



(前列右から) 康志豪さん、バスネット・サンデスさん、(後列右から) サキヤ・アシスさん、シドウ・ムハンマド・ダニシさん、ブン・ケファスさん

マド・ダニシさんは振り返る。

■卒業後の進路

間もなく卒業を迎えるが、将来の夢は大きく広がる。

「4年制大学に進み、その後は大学院への進学を見据えて

いる」というサキヤ・アシスさん。将来的には自動車

メーカーの研究職に進みたい

考えた。中国人の康志豪さんは「自動車大学校で1級自動車整備士養成課程とポディ

将来は経営者に 広がる夢

整

備

日本語、整備技術に加え人間性にも磨き

クラブ科の合計5年間勉強し、板金塗装の技術をレベルアップさせたい」と意欲的だ。将来の夢は、母国か日本で自ら会社を設立して経営者になることだ。

自動車整備業界では整備士の人手不足が深刻化しており、新車ディーラーや整備事業者で外国人整備士を雇用する動きが広がっている。「母国では仕事がないため、専門学校を卒業後に10年間は日本で整備士として働きたい」(ネパール人のバスネット・サンデスさん)と考える外国人留学生もおり、整備士不足の課題解決につながる大きな戦力として期待できそうだ。

◇ 若年人口の減少、若者の価値観の多様化、4年制大学への進学率上昇などで、工業高校の生徒数は年々減少している。そうした厳しい環境の中、六郷工科高校は今後も外国人留学生も積極的に受け入れて育成に努め、国内外に有能な人材を送り出し続けていく考えだ。